

北 欧 の 幼 児 教 育

西 本 脩

ス エ ー デ ン

組 織 と 管 理

スエーデンの幼児教育施設の種類は、次の三つです。ふつう一日三時間通う幼稚園と、まる一日開いている託児所と、百姓の子どものための季節託児所とです。

たいていの幼稚園と託児所は、市町村自治体当局によって設立され、資金を供給されています。どちらかといえば珍しい方ですが、時おり、幼稚園と託児所が、私人や慈善団体あるいは会社によって設立されることがあります。しばしば婦人団体がイニシア

チフをとり、それから市町村自治体がこれを実施します。

私立の幼児教育施設は、公当局に管理され、補助金を与えられます。これらの施設は、園児の人数を地方当局と中央の管理当局（児童社会局および社会行政部）に申告する必要があります。幼児教育の監査は、専門の職員によって行なわれています。

幼児教育は義務ではなく随意であり、無料ではありません。入園を許される最低の年齢は、幼稚園で四才、託児所で生後三か月です。

教員ひとり当りの子どもの人数は、幼稚園では二〇人であり、託児所では子どもの年齢によって異なり、三才から七才までの子どもは一五人、二才から三才までの子どもは二人、一才から二才までの子どもは七人、三か月から一二か月までの乳児は四人となっています。

教育内容と方法

幼稚園と託児所の仕事についてとりきめた規則の中に、このような仕事は社会庁、特にその中の「児童社会局」の行なう勧告にしたがって編制すべきことが明記されています。

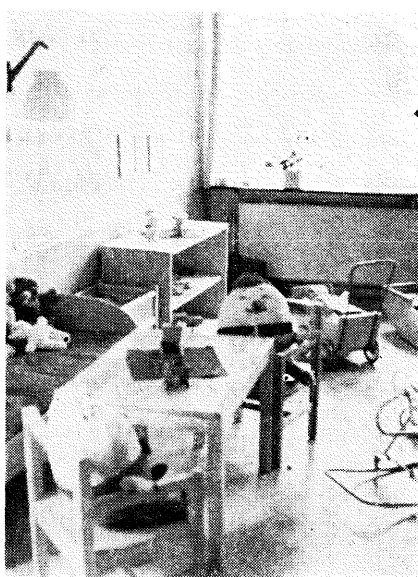
典型的な幼稚園の教育計画は、次のような内容を含んでいます。遊び、音楽、談話、リズム運動、個人的活動と集団活動、自由と指導（針仕事、図書、模型製作、構成ゲーム、木彫、水遊びなど）。

託児所の保育計画は、ある点までは、幼稚園の教育計画と同じです。年少児は、子どもを発達させるような遊びと、その年令にふさわしい材料とに、心を集中させることがとりわけ大切であると、考えられています。幼稚園や託児所で使われる材料について、最少限の基準を守ることが要求されています。

就学前の教育では、読み書きそろばんのような基礎的技能を教えることは、義務でもなく、禁じられていませんが、現に教えられてはいないようです。

幼児教育施設では、スウェーデンの国語が使われていますが、これは、ただ北端の国境地方（ここではフィンランド語が話されている）を除けば、どこでも母国語になっています。ここでは、子どもたちは小学校へ入学するまで、スウェーデン語で早期の経験を

ストックホルムの幼稚園・保育室



与えられます。

幼児教育のセンターとしては、一九五八年以来、ストックホルムに、幼児教育の心理学的研究のための実験室、すなわち、

Stockholms högskola pedagogiska institut barnpsykologiska laboratorium があります。その研究成果は幼児教育施設のエデュ計画を発展させたり、教員を養成したりするための基礎として役立っています。

社会的・医学的方面

家庭生活の要求や、家庭の外で働いている婦人の職業生活には

特別な考慮が払われていますし、付近の住民の生活習慣や労働習慣にも、いくぶん考慮が払われているようです。

親たちの集会が催され、教師は親たちと直接交渉を持ちます。

法律にしたがって、各幼児教育施設は医者と連絡していなければなりません。施設自体で、子どもたちの定期的な、徹底的な医学的検査を行なうことが必要です。

幼児教育施設はできるかぎり子どもたちの住んでいるところの近くでさがされます。北部地方のいなかにある季節託児所では、ときどきスクールバスによる子どもの送り迎えが行なわれます。

建物と設備

国の補助金を受ける前に、満たさなければならない条件の一つは、建物が社会当局によって認可されることです。さらに、一般に適用される法律上の規定は、建物の大きさ（子どもひとり当たり何平方メートルという数）・窓の面積・建物の方向などについて決めています。また、衛生上そのほかの設備についてはもちろんのこと、壁とゆかのおおいに用いている材料の種類などについても、くわしい勧告があります。

教員

幼児教育施設の教員の特別な訓練が、小学校教員の養成大学で

行なわれています。訓練を受けることができるものは、二〇才になって、健康証明書を取り付け、一〇年間の学校教育を受けたことあるいはそれに相等することを証明する証明書を持ち、ある一定の育児の知識（ふつう看護婦の免状といっしょ）を持ち、幼稚園またはそのほかの幼児教育施設で、十分な指導のもとに少なくとも三か月間の実習をしなければなりません。この課程は二年です。

今では、三才から七才までの子どもを教えるものはすべて、学校教育の訓練を受けています。施設で働いているもう一つの種類の人には、有資格の看護婦です。ふつうに必要な資格を持っていない看護婦や子どもの世話人が雇われることは、めったにありません。幼児教育施設の教員の俸給率は、小学校の教員よりも、三号俸低くなっています。

一方の教育段階から他方へ（たとえば、幼稚園教員から小学校教員へ、あるいは、小学校教員が幼稚園教員へというように）転任することはありません。

幼児教育の発展上の障害

現在、もっとも重大な問題は、正式の資格を持った教員がたりないことです。これをうまく解決する仕事は、国の委員会にゆだねられています。

デンマーク

施設の種類

デンマークの幼児教育は、おもに私立の施設がイニシアチブをとっており、託児所と幼稚園とがあります。コペンハーゲンや一部の町では、教育当局によって、公立小学校の中に、幼児学級が併設されています。そのほかでは、七才の規定年令になるまで、子どもたちは小学校に通うことを許されません。

組織・財政・管理

幼稚園や託児所は、市当局・私立の研究所・児童福祉協会などによって、ときには会社によって設立されます。法律で「認可」された施設は、公当局から補助金を与えられます。貧しい家庭の子どもが通う施設の場合には、政府と地方当局から与えられる補助金は、それぞれ費用の四〇パーセント、三〇パーセントにのばっています。そのほかの「認可」された施設は、政府から二〇パーセント、地方当局から一五パーセントの補助金を受けています。

「認可」されていてもいなくても、幼稚園と託児所はすべて「児童青年福祉一般管理者」によって承認され、監督されます。

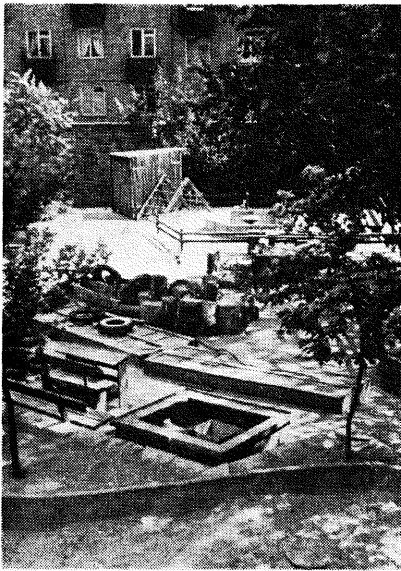
幼児教育の監査は、「児童青年福祉一般管理者」の婦人視学官が行ないます。婦人視学官はみんな幼稚園教員の免許状を持ったものであり、施設長としての長い経験を持っているものです。また、地方当局の代表者による管理も行なわれています。

いろいろな特徴

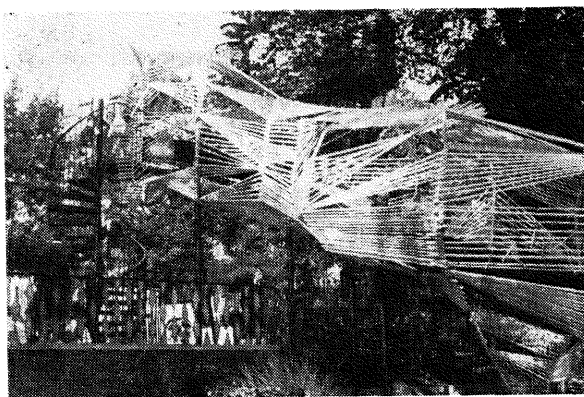
幼児教育は義務でなく、随意です。託児所は〇才から三才までの子どもを受け入れ、幼稚園は三才から七才までの子どもが通います。多くの幼稚園は、二才からの子どもを受け入れる特別な部門を持っています。

ある子どもはどんな支払い金も要求されずに、施設に通うこと

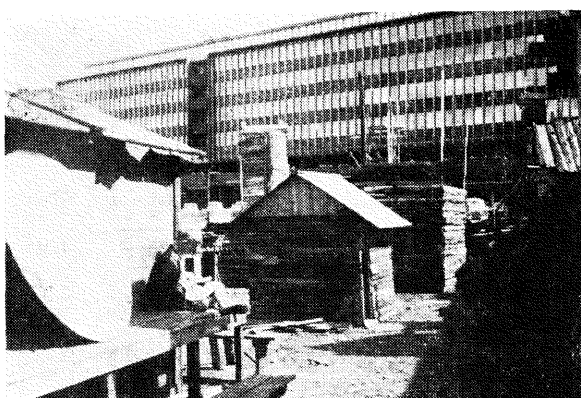
コペンハーゲンの幼稚園・運動場



コペンハーゲンのチボリ遊園にあるスペリ台



コペンハーゲンの児童遊園・子どもがつくった小屋がみえる



を許されるでしょうが、一般管理者が認めた分担金は親に請求されます。親の分担金は、受け取られるそのほかの金とともに、公共の補助金でまかなえない部分の費用（すなわち、おもに貧しい家庭の子どもが通っている施設の場合には三〇パーセント、そのほかの施設の場合には約六五パーセントです）をまかなうよう、もくろんであります。二〇人の子どもに対して、ひとりの幼稚園教員が準備されています。託児所では、一二人の子どもに対して

ひとりの割合で職員が、また九人の子どもに対してひとりの実習生がいなければなりません。

教育的活動と方法

幼児教育の内容と方法について、公式の指令は何もありません。この段階では、遊びがおもだった位置を占めています。禁止されてはいませんが、基礎的技能（読み書きそろばん）を教えることは、一般に幼稚園では行なわれていません。

教える言語

デンマークの託児所や幼稚園では、国語（デンマーク語）が使われています。エスベラント語を教えている幼稚園が、一か所あります。

経済生活・労働生活との関係

託児所はおもに社会奉仕の働きをしています。幼稚園の働きについては、全日制幼稚園の場合には、社会的役割りと両方持っています。半日制幼稚園の場合には、単に教育的役割りだけです。いくつかの会社は、従業員とそのほかの雇い人の子どものために、託児所か幼稚園を持っています。また、少数の小さな季節幼稚園があります。

す。それは、ビート（砂糖大根）の種まきが行なわれる春に開かれ、その取り入れが行なわれる秋にふたたび開かれます。

家族との協力

家族との協力は、親たちの集会によって目的を達せられます。

その上、子どもを幼稚園へ連れてきたときに、親たちは教師と話をします。

医学的管理

医学的管理は、認可された幼稚園と託児所にとっては、義務となっています。託児所は、一か月に二回医者への往診を受けなければならず、一人ひとりの子どもは一年に四回完全な医学的検査を受けます。幼稚園の場合には、医者の往診は一か月に一回で、一人ひとりの子どもの完全な医学的検査は、一年に二回行なわれます。

託児所では、子どもたちは完全給食を受け、幼稚園ではミルクとくだものが与えられます。子どもたちが食事をするので、幼稚園もありです。

建物と設備

幼稚園と託児所の設備を管理するくわしい規定は、社会省によって作成されています。

教員の養成

幼稚園教員は、文部省が管理する教員養成学校の二年課程で訓

練を受けます。託児所で働くためには、幼児の「女家庭教師」（ガバナス）の三年の養成課程を経ることが必要です。

現職の幼稚園教員は、ここ数年間、文部省が編成した十か月の現職訓練課程をとることができます。また、幼児の「女家庭教師」のための現職訓練課程もあります。

なお少数ですが、訓練を受けていない人びとがいます。特に、独力で私立の施設を開いた人びとの中にいるようです。けれども過去数年間、幼稚園や託児所の園長（所長）か、または職員の仕事につくには、上に述べた訓練資格を必要としています。幼児教育施設の教員について、普通に必要資格を持っていないものの、有資格者に対する割合は、一九四九年には三九・二パーセントだったのが、一九五九年にはわずか一六・三パーセントになっています。

教員の地位

給料率は、小学校教員の場合には文部省によって、幼稚園教員の場合は社会省によって決められています。一方の教育段階から他の教育段階へ乗りかえることはできません。

幼児教育の発展上の困難点

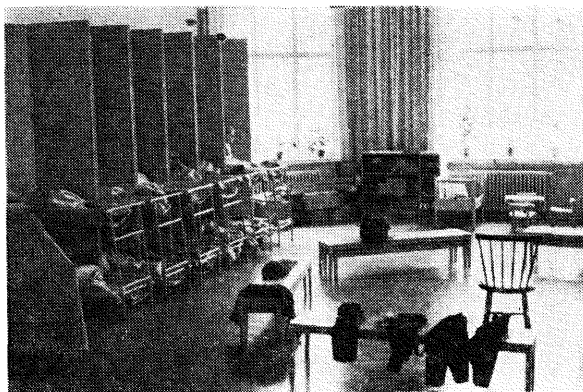
現在もっともさししまった問題のひとつは、就学前の子どもの施設が不十分なこと、特に教育的な形式の計画を持った半日制幼稚園が足りないことです。

フィンランド

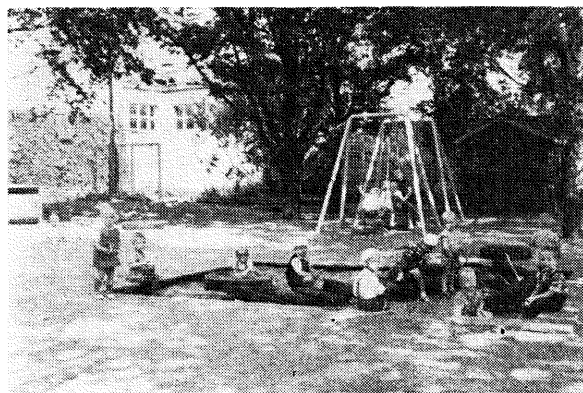
施設の種類

フィンランドの幼児教育施設には、公立幼稚園と私立幼稚園とがあります。

フィンランドの幼稚園・内



フィンランドの幼稚園・外



組織・財政・管理

幼児教育は、慈善団体・会社または私人はもちろん、市町村自治体によって組織され、融資されています。私立幼稚園は、公当局に管理され、補助金を与えられます。政府の補助金は、一年間の予算の三分の一に相当します。

社会省の児童福祉局に属して、幼児教育に対する特別なサービスがあります。監査は、専門の職員によって行なわれます。

いろいろな特色

幼児教育は、いつでも義務ではなく随意です。幼稚園にはいる最低年齢は三才です。保育料はいりませんが、給食費の分担額は請求されます。

教員ひとりあたりの子どもの最少限の人数は、町では二五人、田舎では一六人です。

教育活動と方法

幼児教育の内容と方法については、社会

省が規則を決め、訓令を発しています。五才から六才の子どもに基礎的技能（読み書き計算）を教えることは許されていますが、義務ではありません。教育方法は、おもにフレールベル法に基づいています。モンテッソーリ法もある程度採用されています。

教える言語

この国の二つの言語、すなわちフィンランド語とスウェーデン語が、幼稚園で使われています。けれども、外国語を話す学校があり、その学校の付属幼稚園では、その外国語が使われています。そこで、ドイツ語やフランス語や英語やロシア語を話す幼稚園があります。これらの幼稚園は政府の補助金を受けられません。

経済生活・労働生活との関係

工場幼稚園と季節幼稚園が少しばかりあります。なおその上、家庭生活の要求や、家庭外で働いている婦人の生活に考慮を払っています。

家庭との協力

家族との協力は、両親の夕べ・家庭訪問・縫い物会・クラブによって目的を達せられます。

フィンランドの児童公園・公園のおばさん



医学的管理

子どもたちと教員は、医学的検査を受けます。園児の幼稚園の行き帰りの問題については、両親が責任を負います。

建物と設備

幼児教育を目的とした建物の構造と設備の計画は、社会省の承認を得

るため提出しなければなりません。

教員の養成

ヘルシンキ・ユベスキュレ・タンペレ・ビエタルサーリには、それぞれ幼稚園の女教員養成のための施設があります。入学志願者は、少なくとも一九才になっていて、中等学校の五か年課程を

終えていなければなりません。未来の女教員は、一定期間の教育実習をすること・音楽に対するよい耳を持つてゐること・健康であることを必要とします。養成課程は二年かかります。

現職教育の機会については、幼稚園女教員組合が組織した現職教育課程があり、あるいはまた、教員は大学か高等学校で、さらに進んだ研究課程を取ることが出来ます。

幼稚園教員免許状を持っていないが、特別な学校で育児を受験した人びとも、また雇われます。このような人びとは、助手として働き、幼稚園の女教員よりは低い給料を受けます。

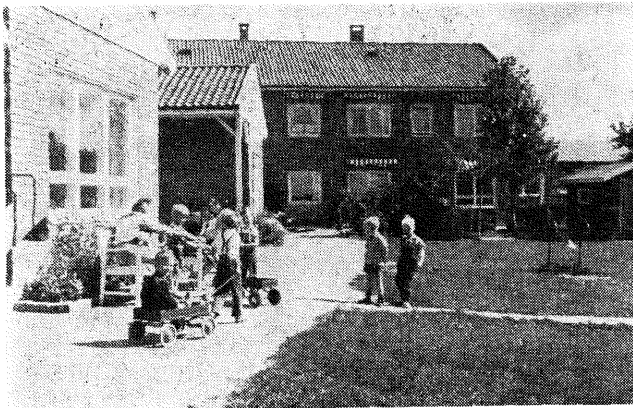
教員の地位

小学校教員が文部省の管理下にあるのに対して、幼稚園女教員の養成ならびに身分は、社会省によって統制されています。養成の仕方が全く違っているのも、一方の教育段階から他方の教育段階へ転任することはできません。

幼児教育の発展上の困難点

大きな問題は、幼児教育の重要性を世間に認識させることです。この重要性は、なおその社会的方面から評価されているにすぎないからです。幼稚園の費用が非常にかかることは、もちろん大きな障害です。

ノルウェーの幼稚園・くるまで遊ぶ子

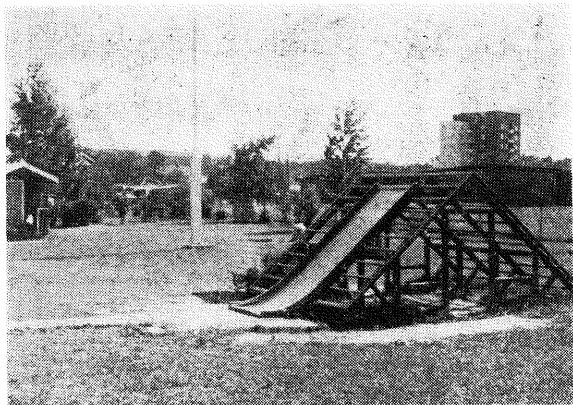


組織と管理

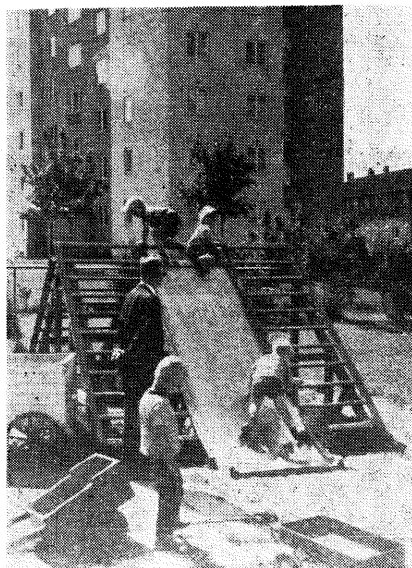
ノルウェー

ノルウェーでは、幼児教育は教育的ことがらというよりは、むしろ社会的ことがらと見なされてきました。が、六才児を教育当局が世話することのよしあしは、広く論議されています。就学前の幼児は多くの方法で世話されています。保育学校、すなわち幼稚園が

ノルウェーの幼稚園・遊具



ノルウェーの幼稚園・遊具



つんぼの子どもの保育学校
が二校あります。

公園おばさん制度は、たいてい、公園と公設運動場に見られます。一日数時間、母親が子どもを、いわゆるおばさんなる婦人に預けます。この婦人は、めいめいの幼児についてある額の月謝をとって、二〇人ないし三〇人世話をします。

あり、「公園おばさん」(ノルウェー語では、バルク・タンテ)の制度

このサービスは婦人団体が行ないますが、ときには常設の保育施設が設置できるまでの仮の施設の時もあります。多くの会社もまた、従業員の子どものために、公園おばさん制度、あるいは保育学校のようなものを設けています。

があります。

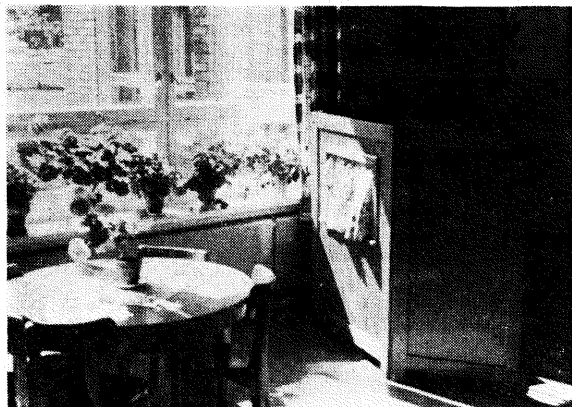
保育学校は、三才または四才から七才までの幼児を一日約四時間受け入れます。公費でまかなわれているときは、保育料は徴収しません。私的団体が経営しているときは、各児に小額の保育料をとりたてます。これらの正常児の保育学校のほかに、精神的に欠陥がある子どものために設立された保育学校が少しばかりあり、

教 員

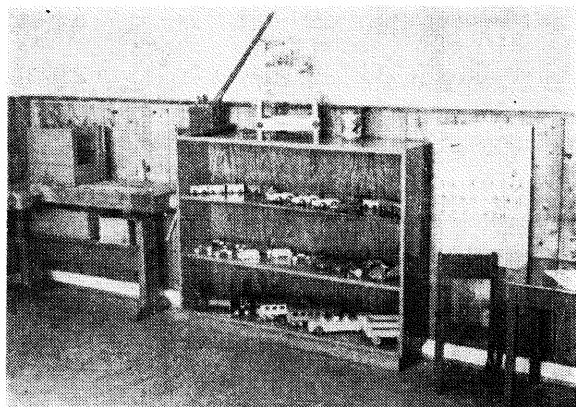
保育学校の教員を得るため、社会省の管理のもとに、少数の学校と課程があります。

幼児教育を担当している当局の許可なしには、保育学校または同種の施設で教員を始めることはできません。

ノルウェーの幼稚園・室内



ノルウェーの幼稚園・室内



問題点と動向

幼稚園組織においては、心身に欠陥がある子どもを取り扱うための措置が最近ととのえられ、一部は普通の幼稚園で、一部は特別の施設で行なわれています。

精神的に欠陥がある子どものための昼間保育所は最近始められ

ましたが、学令を過ぎた児童も入所を許されます。

必要な場所には、幼稚園を設立する傾向が見られます。けれども、新しい施設を発達させるのにさしさわりとなるおもなものは、幼稚園または昼間保育所に財政的な援助を行なうための、法律に基づく規則がないことです。

オスロー市のような自治体では、幼稚園にその運営費の六〇パーセントを補助します。他の自治体では、地方議会は経費の四十パーセントないし六〇パーセントに当たる自治体資金を割り当てています。ある市では、予算の不足総額は市議会によって地方税から支払われます。一般に、都市の幼稚園の運営費は

あまり大きい問題ではありません。

けれども、農村地方では、幼稚園の不足はある程度財政的困難に基づいています。したがって、幼稚園財政に関する中央もしくは地方の規則があったならば、新しい施設を発達させるのに大きな力となることでしょう。

(大阪樟蔭女子大学)